

「支えあう、いま・福のある里づくり」
を目指して

島根県浜田市

今福まちづくり委員会







島根県浜田市の中山間地の道を辿ると、水田に石州瓦の赤い屋根が映える集落の景観に、思わず息をのむ。市の中心部から車で20分ほどの今福地区において、地元住民で構成する今福まちづくり委員会(会長・岩崎敏さん)が4月から12月までの月2回開催する「もやい市」を訪れた。

会場の今福まちづくりセンターには、朝早くからスタッフが集まり、黄色いのぼり旗を立て、テントを設営して開店準備を進めている。会場には地域の農家が育てたキャベツやレタス、ネギなどの新鮮な野菜や苗が並び、日本海の新鮮魚介が並んだ魚屋さんや大判焼きのお店も出店する。

中でも、今福まちづくり委員会が運営する露店「ほっかほっか屋」では、メンバーが腕を振るった焼きそばや焼き鳥が並び、委員会が持つ畑でメンバーが共同で栽培したサツマイモ「紅はるか」を使ったスティック芋は人気商品だ。3班による交代制で運営され、お揃いのエプロン姿のスタッフが手際よく準備を進める。

もやい市の運営は、会計や品出しもすべて地域住民が担う。朝、持ち込まれた商品など、担当者が出荷伝票を確認しながら商品一覧を作成する。多い時には約250品目が並び、毎回約60人のお客様にお買い上げいただく。「こんなに安くて大丈夫?と聞かれることもあるけど、生産者にも利用者にも喜んでもらえる場でありたい」と、もやい市担当の梶原さんは話す。

出荷者にお話を聞くと、森内さんは「畑で作った野菜を地域の皆さんにも分けたい」と思って始めた。大変だけど農薬は使わず育てている」とのこと。田村さんは「退職した頃に誘われて参加するようになった。ほぼ毎回出品している。ここに来てみんなと話ができるのが楽しい」と話す。

もやい市までの移動を支えているのが、買い物送迎用のジャンボタクシーだ。地元のタクシー会社と契約して運行し、事前予約した利用者を迎えに行き、もやい市会場へ送迎する仕



組みで、免許を返納した高齢者にとって欠かせない交通手段となっている。添乗スタッフも同乗し、利用者との会話を通して見守りや安否確認も行う。

もやい市の会場では、買い物済ませたあとも、テーブルを囲んでコーヒーを片手に談笑している様子。岩崎会長は「買い物だけではなく、家に閉じこもらず人と話をして帰ってもらうことが大切」と温かく見守る。

もやい市は、今福地区唯一のスーパーが閉店したことをきっかけに始まった。初代会長の田邨さんの「5キロ以内に店がなく、車のない人は買い物にも行けない状況になった。地域の暮らしを支えたい」という思いから朝市の構想が生まれた。運営方法の検討など手探りのスタートだった。「もやい」には、お互いに助け合うという思いが込められている。当初の野菜販売を中心とした運営から、「ほっかほっか屋」による飲食販売など、地域住民が交流する場へと発展してきた。岩崎会長は「ここへ来ればお互いの元気な顔が見られ、安否確認にもなります」と語る。

今福地区は人口431人、高齢化率49・2%（令和8年5月時点）の中山間地域にあり、平成23年7月、公民館活動を基盤に今福まちづくり委員会が発足し、「安心で住みよい里いまふく」「活力あるふる里、地域の絆、心の豊かさを求めて」を合言葉に住民主体の地域づくりを進めてきた。産業振興、農地保全・課題解決、交流・健康・福祉、防災・防犯、交通・見守りなど5つの部会が連携し、「無いものは自分たちでつくって楽しむ」という考えのもと、地域課題の解決に取り組んでいる。

多岐に渡る活動の中でも、交流人口の拡大を目指す活動として力を入れているのが、幻の鉄道「広浜鉄道今福線」の遺構を活用したウォーキング大会だ。着工したものの戦争や国鉄再建により完成しなかった未成線の橋梁やトンネルを巡るイ



ベントで、現在では県内外から約300人が訪れる。開催前には住民が草刈りなどを行い、地域ぐるみで来訪者を迎えている。かつて住民の間でも埋もれた存在だった未成線は地域資源として見直され、今福を代表する交流事業へと成長している。

また、委員会が栽培するシャインマスカットも軌道にのり、今後大きな可能性がある取り組みだ。JAの育苗センターから、使われなくなったハウスを同会が借り受け手作業で修復し、シャインマスカットを一房ずつ摘果を行いながら育てており、毎年9月にはもやい市に行列ができるほどの人気商品となっている。同会では「儲かる農業」として収益と美味しさを地域に還元したい思いを持つ。

こうした活動を支える力として、事務局長の遠藤さんは「今福は、利益を追うのではなく、住民が主体となってまちをつくるのが特徴」と話す。広報紙などで活動を積極的に発信し、サツマイモやブドウの栽培、餅つきなどを地域住民と一緒にを行うなど、世代を超えて、今福の地域づくりに携わる人を増やしてきた。

一方で、食品衛生法の改正により手作り総菜や漬物の販売が難しくなったことや、スタッフの高齢化などの課題も抱えている。それでも岩崎会長は「自分たちが元気なうちに次の世代へバトンタッチしたい。一人ずつ声をかけながら参加してもらい、この活動を続けていきたい」と話す。

「地域に無いものは自分たちでつくって楽しむ」という思いは、初代会長の田邨さんから、岩崎会長をはじめ多くの住民へ受け継がれ、今福まちづくり委員会の活動は、これからも地域の暮らしを支えていくことと思う。

【連絡先】今福まちづくり委員会
島根県浜田市金城町今福105-2
TEL：0855-42-2083
メール：imafuku-k@ph-hamada.jp